

# 目標分野 1

すべての子どもが命を守られ  
健全に発育すること



すべての子どもは  
命を守られ、  
健全に発育する  
権利があります。

この権利を守るには、すべての子どもが保健医療を利用でき、食料が与えられるようになることが不可欠です。予防接種を受けられ、HIV/エイズの予防策が取られ、さまざまな予防可能な病気から守られることが必要なのです。それはすなわち、家庭とコミュニティが、乳幼児を健全に成育できる体制を整えるということです。

ユニセフは、質の高い保健ケア、十分な栄養、予防接種、HIV/エイズ予防、青少年の健康および乳幼児期の子どもの発達（Early Childhood Development：ECD）における支援を提供していますが、これらのサービスが相互に関連しており、全体的で多分野にわたるアプローチが不可欠であることを認識しています。

2019年、ユニセフは21億5,000万米ドルの年間予算で、152カ国の子どもたちの生存と成長を支援しました。これには、9億5,000万米ドルの費用を要した、緊急支援を必要とする82カ国での活動も含まれています。



ソマリア・プントランド、ガローウェのガムブール保健センターで、赤ちゃんを抱っこしながら予防接種を待つ母親。ユニセフは、ソマリアでのプライマリ・ヘルスケア（地域保健医療）を支援しており、ソマリア政府と連携して、肺炎、下痢、マラリア、その他の病気を対象とする予防接種と予防および治療サービスを提供するため、国の対応能力を強化しています。ユニセフはソマリアにおいて、妊産婦の保健サービスと不可欠な新生児ケアサービスの範囲と質を拡大・向上させるために取り組んでいます。

© UNICEF/UNI218212/Hinds

ユニセフは、  
質の高い保健ケア、  
十分な栄養、予防接種、  
HIV/ エイズ予防、  
青少年の健康  
および乳幼児期の  
子どもの発達（ECD）  
における支援を提供  
しています。

## 保健

ユニセフの妊産婦、新生児、子どもおよび青少年の保健プログラムは、以下の点に重点を置いています。包括的なプライマリ・ヘルスケア（地域保健医療）の強化。妊産婦と新生児に必須となる保健サービスを提供して予防可能な死をなくすこと。小児疾患の予防・治療。すべての子どもたちが十分な予防接種を受けられること。さらに、子どもの発達、子どもの障がい、非感染性疾患、メンタルヘルスサービス、HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンの接種、避妊、環境汚染対策、10代の母親のケアといった保健プログラムも、今後いっそう充実させていきます。

2019年、妊産婦と新生児の死亡率の高い国々でユニセフのプログラムを通じて支援を受けた保健施設では、2,740万人の出産がありました。チャドとコンゴ民主共和国では、妊産婦と新生児の破傷風を撲滅しました。また、ユニセフはパートナーとともに、優先順位の高い64カ国で6,570万人の子どもたちに三種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風）ワクチン、五種混合（ジフテリア・破傷風・百日咳・B型肝炎・Hib = ヘモフィルスインフルエンザ菌 b 型）ワクチンを3回接種し、人道危機下にある4,130万人へのはしかワクチン接種を支援しました。ナイジェリアはポリオ感染者ゼロとして3年目を迎え、アフリカは2020年にもポリオのない地域として認定される可能性が出てきました。

肺炎が流行している25カ国では、肺炎が疑われる子ども940万人に抗生物質を投与しました。ユニセフは、地域の総合的なケースマネジメント（社会的ケアを必要とする人々に対して、最も効果的でかつ効率的なサービスや資源を紹介、斡旋するとともに、そのサービスが有効に利用されているかを継続的に評価すること）を行い、3万5,840人の地域保健員のスキル向上を支援しました。緊急事態下において殺虫剤処理を施した蚊帳の配布が促進され、169万人に届けられました。

2019年までに、67カ国が青少年の健康に関する、ジェンダーに配慮したインクルーシブで（誰もが受け入れられ）、多分野にまたがる国家計画を策定し、ユニセフは31カ国でその実施を支援しました。ユニセフがワクチンの導入を支援した5カ国では、約100万人の10代の女の子たちにHPVワクチンの全スケジュールの接種が行われました。2019年には、79カ国が学校の保健プログラムを実施し、メンタルヘルスを含む、青少年の健康への取り組みを総合的に行うための主要なプラットフォームを活用しました。

2019年の保健における主要な資金パートナーは、世界銀行グループ、GAVI アライアンス、米国ユニセフ協会、ドイツ、英国です。



上：ラオス、サラワン県タオーイ地区のタホーク小学校の就学前クラスで、お昼に栄養価の高い食事をする女の子。

© UNICEF/UN0311087/Verweij

## 栄養

2019年、ユニセフは120カ国以上の国で栄養プログラムを支援し、「世界子供白書2019：子どもたちの食と栄養 - 変わりゆく世界で健康に育つために」（原題：The State of the World's Children 2019: Children, food and nutrition - Growing well in a changing world）の中でも国や社会にとって栄養不良の三重苦と報告されている、低栄養（発育障害と消耗症）、隠れ飢餓（微量栄養素の不足）、過体重（肥満含む）に取り組みました。

ユニセフが2019年に支援を行ったプログラムは以下の通りです。

- ▶ **乳幼児期**：乳幼児期の発育障害その他の栄養不良を予防するため、5歳未満の子ども3億700万人にサービスを提供。
- ▶ **青少年期**：青少年期の男女6,000万人に貧血やその他の栄養不良を予防するためのサービスを提供。
- ▶ **重度の栄養不良**：重度の消耗症やその他重度の栄養不良の子ども490万人を治療。

ユニセフは栄養プログラムを支援する上で、まず予防に注力し、それでも食い止められない場合に治療を行います。このアプローチは、ビル & メリンダ・ゲイツ財団との栄養におけるパートナーシップに基づいています。15の優先国においては、このパートナーシップを通じて、胎内にいる時から2歳の誕生日までの「人生最初の1000日」の間、子どもたちとその母親を対象に食料、保健および社会的養護（家庭にかわり社会が子どもを養育する、または困難を抱える家庭を支援すること）プログラムを提供しています。

2019年の栄養における主要な資金パートナーは世界銀行グループ、ドイツ、欧州委員会、英国、オランダです。



上：カンシーム・ルースさんが徹底していることは、1歳のライトンちゃん（写真）と4歳のジョアニータちゃんに毎日、小児抗HIV薬を投与することです。ユニセフはウガンダ保健省とのパートナーシップにおいて、HIV陽性の乳児向けの早期診断と初期治療の改善に取り組んでいます。これは命を守る上で非常に重要な取り組みです。

© UNICEF/UNI211887/Scherbruckner

## HIV/エイズ

2019年、1,350万人の女の子と900万人の男の子がHIV/エイズの検査を受け、その結果を受け取りました。しかし、2030年までのエイズ撲滅に向けた進展は十分ではありません。母子感染予防への取り組みの結果、過去4年間に抗レトロウイルス療法（ART）を受けたHIV陽性の妊婦の数は4%増加しました。母子感染の撲滅に向けて前進しつつある国も何カ国があります。ボツワナ、マラウイ、ナミビア、ウガンダ、ジンバブエでは、HIV陽性の妊婦の95%がARTを受け、撲滅に向かって進んでいます。スリランカは、HIVの母子感染の撲滅が世界保健機関（WHO）によって認定された、13カ国に加わりました。

2018年末時点で、10代の女の子や若い女性を含む、世界での新規のHIV感染は31万件と推定されていました。これは、世界目標よりも3倍多くなってしまっています。地域的には、アフリカの東部と南部で青少年および若者の新規感染者数に改善が見られた一方で、世界の同じ世代のHIV感染の流行が依然として懸念されています。

2019年のHIV/エイズにおける主要な資金パートナーは、イスラム開発銀行、国連合同エイズ計画（UNAIDS）、韓国ユニセフ協会、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）、および国連人口基金（UNFPA）管理下の国連パートナーシップおよび共同プログラムです。

## 乳幼児期の子どもの発達

すべての子どもが人生の最善のスタートを切れるようにするためのユニセフの取り組みは多分野にわたっており、栄養、保健、教育、社会的養護、保護者への支援も含まれます。2019年には以下の成果がありました。

- ▶ 多分野にまたがる乳幼児期の子どもの発達（ECD）プログラムを115カ国が実施しました。うち45カ国では政府が主導しており、行動計画の規模を拡大するための費用を支出しています。
- ▶ 83カ国が国のECD政策または行動計画があると報告しています。
- ▶ ユニセフは人道危機下において、5歳未満の子ども61万5,049人をECDプログラムで支援し、目標の76%に達しました。

## 成果を加速させる

ユニセフが成果の加速に取り組む中で、その最たる目標は、取り残されるリスクが最も高い子どもたちと家族、すなわち、サハラ以南のアフリカや南アジアの貧しい家庭の子どもたち、そして紛争の影響下で不利な立場にある子どもたちに手を差し伸べることです。子どもの命を守る支援が身を結び、健全な成長の成果が上がるということは、人道危機やジェンダー差別の状況分析を強化し、コミュニティへの関与と社会データ分析を活用して、分野を越えて活動し、社会的・経済的な障壁を打破していくことを意味します。



## 主要な成果

2,740万人の**赤ちゃん**がユニセフの支援を受ける**保健施設**で生まれました。

2億4,900万人以上の子どもたちが、主要国で**2回分のビタミンAの補給**を受けました。

緊急事態下にある4,130万人の子どもたちが**はしかの予防接種**を受けました。

490万人以上の子どもたちが、**重度の急性栄養不良の治療**を受けました。

**肺炎の疑い**がある940万人の子どもたちがユニセフの支援を受けるプログラムにより**治療**を受けました。

1,350万人の女の子と900万人の男の子が**HIV検査**を受け、その結果を受け取りました。

ユニセフは11の多国間機関に参加し、今後10年間に**各国をより良く支援するための共同計画**を立ち上げ、開発支援全体の3分の1近くを保健分野に充てます。